

第59回 広島県公立小中学校事務研究大会



大会テーマ

「子どもたちの未来を共に創る～10年後の学校～」

期日：令和4年11月14日（月）

会場：東広島芸術文化ホール 大ホール

研修1

広島県教育委員会 義務教育指導課 教育指導監 松尾 真理様による研修1「10年後の未来を見通して」は、研究集録への資料掲載を行いました。

開会行事

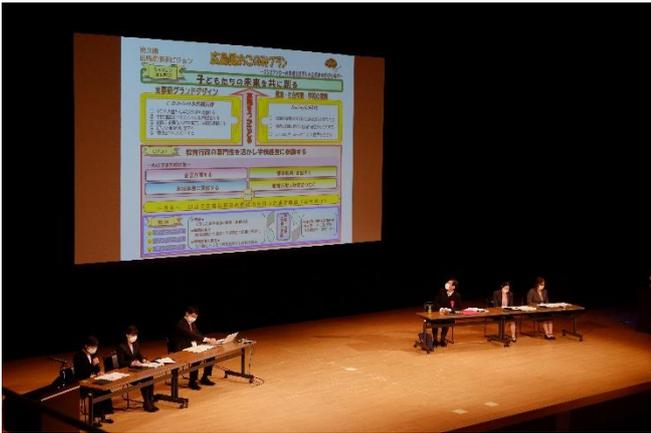


広島県公立小中学校事務職員研究協議会
大谷 葉子会長が開会挨拶を行いました。

研修2



広島大学大学院 人間社会科学研究科
教授 曾余田 浩史様を講師に迎え、「子どもたちの未来，学校の未来を共に創るために」と題した講演が行われました。



研究部より、「第3期県事研ビジョン『広島風おこのみプラン』実行に向けての取組子どもたちの未来を共に創る～10年後の学校～」と題した研究報告が行われました。



「発想の転換による解決策の模索」及び「10年後の理想の学校」をテーマにグループ交流が行われました。

閉会行事



広島県公立小中学校事務職員研究協議会
皿田 稚子副会長が閉会挨拶を行いました。

事業報告書

広島県公立小中学校事務職員研究協議会

1 事業の名称

第59回 広島県公立小中学校事務研究大会

2 事業の目的

学校教育の中で果たす役割について研究協議し、自らを高め学校教育の発展を図る。

3 事業の実施団体

主催 広島県公立小中学校事務職員研究協議会

共催 広島県教育委員会 広島県市町教育委員会連合会

後援 広島県連合小学校長会 広島県公立中学校長会

4 事業の内容

期日 令和4年11月14日(月)

方法 ・ 研究集録配布(行政説明「10年後の未来を見通して」講師 広島県教育委員会義務教育指導課教育指導監 松尾 真理 様 を含む)
・ 研究大会 集合研修およびZoomミーティング研修

日程 13:15 開会式

13:20 講演「子どもたちの未来, 学校の未来を共に創るために」

講師 広島大学大学院人間社会科学研究科 教授 曾余田 浩史 様

14:50 実践報告「テル子劇場」放映

15:00 研究部「第3期広島県事研ビジョンについて」

5 参加者

広島県公立小中学校事務職員研究協議会会員他 287名 他

6 事業の実施概要

研究大会報告(別紙)

研究集録(11月14日送付済)

第59回広島県公立小中学校事務研究大会報告

広島県公立小中学校事務職員研究協議会

令和4年11月14日(月)東広島芸術文化ホールにて、第59回広島県公立小中学校事務研究大会を開催しました。また、Zoomミーティングによる同時配信を行いました。参加者は287人、内72人がWebでの参加でした。当初は8月に1日での開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症第7波の流行により延期をし、半日開催で規模を縮小したため、開会式には来賓のご臨席を賜ることはできませんでしたが、広島県教育委員会教育長様にいただいたご祝辞を集録に掲載させていただきました。

1 大会の概要

「子どもたちの未来を共に創る ～10年後の学校～」を研究テーマに揚げ、次のような内容で研究討議を行いました。

(1) 研修1(研究集録記載のみ)

「10年後の未来を見通して」

講師 広島県教育委員会義務教育指導課教育指導監 松尾 真理 様

急激に変化する社会の中で、子どもたちに必要な資質や能力をはぐくむために、「日本型学校教育」の良さを受け継ぎさらに発展させる「新しい時代の学校教育の実現」を目指した学習指導要領の改訂が行われる。広島版「学びの変革」アクションプランも第3期になり第2期までの課題に応じた重点的な取り組みを提示し、「15歳の生徒につけておいてもらいたい力の」の育成に向けて教育実践を推進している。事務職員にも「縁の下の力持ち」だけでなく、より主体的・積極的に校務運営への参画を求められています。

集録への掲載のみであったが、新型コロナウイルス感染症予防のために急激に進んでいる教育のデジタル化や、働き方改革の中で変わっていく教育活動の中で、事務職員が学校運営事務に期待されている役割についてわかりやすく説明されており、参加した会員からも「未来を見すえて、積極的に学校運営に携わりたい」などの声が寄せられました。

(2) 研修2

講演「子どもたちの未来、学校の未来を共に創るために」

講師 広島大学大学院人間社会科学研究科 教授 曾余田 浩史 様

学校と子どもの未来を考えるにあたり、戦後の学校教育のたどった変遷から現在の学校教育へつながる流れを説明されました。「令和の日本型学校教育」で大切なマネジメントで「戦術」に注目しがちだが、学校の目指す方向性を示す「戦略」を大切にすることが重要であるということや、現状分析と把握を行い、「核となる価値観」を見出し、どんな姿になりたいかをビジョンとする。事務職員も行政職という視点から、学校の強みや潜在力を見いだすことで、よりよい学校や子供の未来に繋がる一歩になるというお話をいただきました。

参加した会員からも「戦略」の大切さに気付き、自分のものにしたいという意見が多くありました。

(3) 研究報告

「第3期広島県事研ビジョン『広島風おこのみプラン』実行に向けての取組

「子どもたちの未来を共に創る ～10年後の学校～」

研究部

平成29年4月に学校教育法が改正され、学校事務職員は「事務に従事する」から「事務をつかさどる」と規定されました。県事研ビジョン「広島風おこのみプラン」について第3期策定までの流れを振り返り、県事研ビジョン実行のための取組アンケート＝進捗状況調査の分析やwithコロナ after コロナアンケートの報告等を行いました。また、実践事例「テル子劇場」を通して、他の教職員との連携のもとで総務・財務等に通じる唯一の専門職として、校務運営へ参画する具体例を紹介しました。グループワークでは、課題に対する自由な発想を養うため、小グループでの協議を行い、様々な意見の交流を図りました。

(4) まとめ

今年度も新型コロナウイルス感染症予防により延期をし、縮小した中での開催となりましたが、新たな取り組みとしてZoomミーティングによる同時配信を行いました。

参加者の経験年数は、コロナ前と比較して30年以上が37%から30%に減少し、10年未満が49%から55%に増加しています。10年以上30年未満のいわゆる中堅は14%であるため、もうしばらく組織の若年層化が進むと見込まれます。

今回の研究大会を通して、若い世代の事務職員から「ビジョンを持つことの大切さがわかった」「ビジョンの達成に向かって事務職員として何ができるか考えて行動したい」などの声があり、10年後の学校について考える機会になったのではないかと感じられます。

来年度は分科会を行う予定です。形式についてはできるだけ多くの事務職員が参加し研修できるような大会にできるように検討していきます。

また、これからの10年、学校を取り巻く環境も変わっていくと思われれます。その変化に柔軟に対応できるような学校事務職員であるべく研究を進めていきます。これからもご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。